

# 令和7年度神石高原町立神石小学校経営方針

## 1 学校教育目標

### 自ら伸びる子・共に生きる子の育成

#### ・自ら伸びる子

アイデンティティ（自尊心・自己肯定感）をもち、自律（自ら考え自分の行動を振り返って）して、高みを目指して失敗を恐れず**挑戦し課題解決する**児童を育てる。

#### ・共に生きる子

教育は、教職員、保護者、児童、地域等、児童を取り巻く人・社会・文化とのかかわりによって行われる。教師は意図的・計画的に児童と他者との関わりの場を設け、児童たちが共によりよく生きていくことができるよう指導にあたる。

## 2 学校経営理念・方針（ミッション・ビジョン）

### 教育に係るマネジメント

#### （1）人を育てる人が育つ学校 < 教師 >

教職員は最大の教育条件である。教える立場にあるもの自身が、今この瞬間も児童及び学級集団から学ぶ当事者であるという立場で教育するとき、児童は学びへの意欲をもち、主体的に学ぶことができる。教育のプロ（職人）として、創造的にアイデアを出し合い、よい仕事をする教職員でありたい。

「倫理観と人間性を磨き、自ら新たなものを創り、一段高い目標に挑戦する教職員」

「社会や児童の変化に柔軟に対応し、連携・協働して組織的に職務遂行できる教職員」

「豊かなコミュニケーション能力をもち、自らの職能伸長を第一とする教職員」

そのためにも、教職員は、健康な姿で児童に接したい。全教職員が、校内外の業務改善を図り、勤務時間外労働時間を減少させることは、わたしたち教職員の使命である。

#### （2）児童の姿で教育を語る学校 < 児童 >

目の前の児童の現実は指導の現実である。教師の教えたいことが児童の学びに転化される教育の理想を追求するために、児童の姿で教育を推進する教師（学校）でありたい。教職員として、「児童の姿は指導の結果」であることを誇れる教育を創造する。

#### （3）シンプル イズ ベストが定着した学校 < 高い質 >

簡潔で整理された場・時・礼節は、児童にとって最高の教育環境である。

教師の言葉の力を磨き、表現を美しく簡潔にし、心を伝える。

時間意識・コスト意識をもって業務を改善しながら働き方改革を進め、最大の教育効果を上げる。

### 3 学校経営目標

#### 組織に係るマネジメント

##### 知を創造し、挑戦する学校

- (1) 学校運営の要としての企画委員会をミドルリーダーが運営する。
- (2) ミドル・アップダウンによる組織運営・管理をめざす。  
※主任層が、目的をもち、職員が計画的に組織的に取り組むことができるようにする。  
※主任層が、取組の進捗状況を把握し（評価し）、次への改善策について助言する。
- (3) DCAPサイクルによるカリキュラムマネジメントを実施する。  
※担当者が、アイデアを出し、失敗を恐れず様々な取組に挑戦する。  
※取組の振り返り（評価）を分掌等で行い、次への改善策を考える。  
※次回・次年度に向けての取組案を、早めに企画する。

#### （中期経営目標）

- ① 授業力を向上し、基礎・基本を確実に習得し、学びを自ら創り、振り返り、活用しようとする力を育てる。
- ② 他者と共に、よりよく生きようとする豊かな心を育てる。
- ③ 目標に向かって、体力の向上・健康維持に努めようとする心身ともにたくましい体を育てる。
- ④ 児童・保護者・地域に信頼される開かれた学校を創造する。

### 4 めざす学校像

##### 児童も教師も自らの学びを自己調整しながら、成長を喜び合う学校

知：基礎・基本を確実に習得し、学びを自ら創り、振り返り、活用しようとする力を育てる。

学校

徳：他者と共に、よりよく生きようとする豊かな心を育てる学校

体：目標に向かって、体力の向上・健康維持に努めようとする心身ともにたくましい体を育てる学校

（道徳重点課題 学校：善悪の判断、自律、自由と責任・希望と勇気、努力と強い意志  
・伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度）

※低：善悪の判断、自律、自由と責任・新説、思いやり

中：善悪の判断、自律、自由と責任・希望と勇気、努力と強い意志  
相互理解、寛容

高：善悪の判断、自律、自由と責任・希望と勇気、努力と強い意志  
・相互理解、寛容・国や郷土を愛する態度

## 5 めざす子供像

### 令和7年度キャッチフレーズ

#### 「3自(さんじー)大作戦

##### 3つの「自」

- 「自」由な発想からスタート！
- 「自」信をもって挑戦！
- 「自」分の言葉で表現しよう！

児童が、「自ら伸びる」ためには、児童自身が安心して何を行動しても許される場があり、何を言っても許される人間関係の存在が重要である。つまり「自由」な発想で行動すること、「自由」な発想で発言することにより、新しいものを創り上げることができ。その営みが自らを成長させるものとする。もちろん、ここで言う自由とは、自分勝手ではなく、節度というものに大事にした中での言動でなくてはならない。また、「自由」な発想を生かそうとするということは、指導者自身も、「こうでなければならない」という、押し付けの教育からの脱却をし、真に子供自身が学びの主人公であるという意識変革をしなければいけない。

このような自由な発想で言動したことは、必ず新しいものを創り出すエネルギーになるはずである。そのエネルギーは、他者に認められ他者を動かす源となる。そして、自分自身の言動への「自信」につながるはずである。今まで、「自信」がなかったことに対しても、少しずつ、「やってもよい。」「言ってもよい。」「挑戦してもよい。」という態度が養われる。

そうして、挑戦したことを、本当の自分の力にするためには、「自分」の言葉で誰かに伝える(表現)することが重要である。自分では、分かっているつもりでも、実際に「自分」の言葉で表現しないと、自分の間違いに気付かなかったり、自分自身理解できていないことに気付かなかったりすることがある。逆に、だれかに言葉で伝える(表現する)ことにより、自分がどれくらい分かっている(分かっているか)を推し量ることができる。

このような営みを繰り返し、自分の学びを自己調整しながら、共に成長を喜び合いたいものである。常に大きな夢・高い目標をもち、それに向かって果敢に粘り強く挑戦し続ける教職員と子どもでありたい。「自分ではできない」「やっても無駄だ」「考えてもわからない」と考えやすい児童を、教職員が身をもって前向きにさせ「やればできる」と思わせながら、子どもと共に自己実現を図っていく。

教育は刹那、刹那の感動をつくることである。教育活動の中で一瞬一瞬の深い感動をいくつも児童と一緒に味わいながら教育活動を続けていきたい。

### 柔軟に考え判断する「かしこい子」

自ら課題を見つけ、自らの考えをもち、協働して解決する子  
知識をひたむきに求める子

自分の考えを自分の言葉で表現できる子

### よい行いを素直にする「さわやかな子」

相手の話を集中して聴く子

さわやかなあいさつや返事などの反応ができる子

生き生きと活動し、全力を出し切って感動を味わう子

### 粘り強く挑戦する「たくましい子」

目標をもち、達成にむけて進んで粘り強く努力する子

当たり前のことを当たり前によりぬく子

## 6 めざす教職員像

- 倫理観と人間性を磨き、自ら新たなものに挑戦する教職員
- 社会や児童の変化に柔軟に対応し、連携・協働して組織的に職務遂行できる教職員
- 豊かなコミュニケーション能力をもち、自らの職能伸長を第一とする教職員

## 7 本年度の重点課題（短期経営目標）

### 【確かな学力】

- 国語科を中心とした研究を推進し、児童の主体的な学習の習得に向けた授業改善を図る。
- （課題・目的を意識付け・任せる・評価する）

### 【豊かな心】

- 相手意識をもったあいさつ・返事や心の交流が促進される取組を進める。  
（道徳教育・読書活動・日常的な「やりとり」「行動」を評価する）

### 【健やかな体】

- 努力が結果となる体験を通して、児童の体力向上の意欲を高める。
- 生活の基盤となる確かな生活習慣を身に付けさせる。  
（目標の共有・日常的に評価する）

### 【信頼される学校】

- 地域への関心・貢献の意欲を高める。  
（地域教材・人材を活用する・地域に発信する・丁寧な対応をする）
- 児童・保護者・教職員が安心して安全な学校生活ができていると実感する取組をする。  
（児童・保護者・教職員が、「行きたい」「行かせたい」、教職員が「勤めたい」と思える学校を創る。）

**重点課題克服のためのポイントは、「取組の動機付け・意欲付け」と「評価と場の工夫」**

## 8 教育研究・授業改善

【研究主題】

自分の考えを自分の言葉で表現できる子どもの育成

—思考の方法を活かした考えの交流を充実させる授業づくりを通して—